
ドMになりたいドS君

ナカモト工事

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

DMになりたいDS君

【Nコード】

N7635T

【作者名】

ナカモト工事

【あらすじ】

僕は、DMになりたい。

僕はMになりたい。

僕が言うMとは、人物を匿名にする時に使うものではない。虐げられて悦びを感じるM。そう、マゾヒストの事だ。

何故、そんなものになりたいのかというと、“彼”に強い憧れを抱いているからだ。

たけなここすけ
竹中康介。僕が憧れている人物である。

彼は隣のクラスの人気者。サッカー部のキャプテンで、その才能を買われ中学二年生なのにもうサッカーの強豪高校からお声がかかっているという。こんがりと焼けた肌から覗く白い歯が、どこぞのシゲルを想像させる爽やか少年だが、クラブで鍛えられた身体を見れば、そこらへんの不良くずれなら避けて通るくらいの迫力はある。

そんな彼だが、僕は見てしまったのだ。グラウンドの隅っこでサッカー部がストレッチをしていた時、野球部員の暴投が彼の顔面にのめり込む瞬間を。

あまり彼の人となりを知らなかった僕は、その外見だけで「ああ、野球部員死んだな」と思った。しかし。

彼は、笑っていたのだ。

嫉妬すら覚えるその表情は、この世の全ての快樂を知った者だけが味わえるような、恍惚としたものだった。

一体、彼に何が起きたのか。いや、野球ボールが顔面にクリティカルヒットをしたのは知っている。僕が知りたいのは、彼の『内』でどんな化学反応が起きたのかという事。

何故、彼は野球ボールを顔面に食い込ませながら笑っていたのか。何故、彼は痛い思いをしているのに幸せそうにしているのか。彼の中で、何がどうなってそうだったのか。何故だ。何故笑う。

僕が疑問に思う気持ちは日に日に大きくなり、やがてそれは「も

う一度、彼のあの顔を見たい」、というものになる。

地味である事に関しては定評のある僕は、それを利用して気付かれる事なくこっそりと近付き、後ろから、階段の上から、彼の友達に紛れ込みながら、なんかもう面倒臭くなったので真正面から攻撃をしかけるようになった。

「てめー！次はねーぞ！」と脅すような事を言うが、そんな事を言う彼の口元はだらしなく弛んでいる。むしろ、「もつとしてくれ」と目が物語っているではないか。

何故だ。何故、彼は痛めつけられる事を望むのか。僕は得体の知れない恐怖におののきつつも、何故か彼への攻撃はやめられなかった。

彼に攻撃する前の興奮。僕の手が、足が、彼に届いた時の快感。そしてその後に見せる彼の恍惚とした表情。

それはまるで麻薬のように依存性を持ち、僕を駆り立てる。

——これが、恋？

なんて恋する乙男オトメンになりかけたが、彼に性的興奮を覚えないのでそうじゃないと瞬時に理解した。

それでは、何が僕をそこまで駆り立てるのか。答えは出ないまま彼への攻撃を繰り返していたある日、唐突に理解した。

そうだ、僕は彼になりたいんだ。

びっくりした。神様が降りてきたのかと思った。それくらい、神がかった閃きだったのだ。

彼のあの顔。あれは確かに悦んでいる。何故そんな風に悦べるのかは無知な僕には到底理解できないのだろうか、痛みを悦びへと変える彼には怖いものなど無いのではないだろうか。

僕には怖いものなんて一杯ある。注射の針なんて見ただけでデリケートゾーンが縮む思いだし、小さい頃夢の中で「何故私を捨てたの」と責めてきたヒーマンも怖い。

そんな怖いものだらけの僕からしたら、彼はまさにヒーロー。絶対無敵の超人タケナ力なのだ。

僕を襲う彼への強い羨望。そして同時に沸き起こる嗜虐心。憧れから妬み、そして最終的には絶対的なものを擦じ伏せ、支配したいという思いに変わる。その願望を果たすのはとても容易い事だった。僕が一撃を入れさえすれば、彼は僕に従順になるからだ。口ではいつも逆らっているのだが、その表情は恍惚としていて、気持ち身体が媚びるように擦り寄って来る。なるほど、これがツンデレというものか、と理解した。

支配を果たした瞬間に訪れる得も言えぬ満足感。その時の僕は知らなかったのだが、それがS、つまりサディズムだと言われるものだという事を、僕はすぐに知る事となる。

彼が放課後、誰もいない教室に、しかも自分のではない教室にコソコソと忍び込む姿を見かけた。よく見ると僕のクラスだ。一体何をしているのかと半分だけ顔を覗かせて見てみれば、なんと僕の机に何か突っ込んでいるではないか。

なんだ、今さら逆襲でもしようというのか。陰湿にゴミやら虫やら突っ込んでたりするのか。許せん。そんな事する奴にはお仕置きするしかない。いや、彼は超人だった。そんな事をすれば逆に悦んでしまうかもしれない。お仕置きしないのがお仕置きになるのではないだろうか。だって超人だもの。

とにかく、僕が見ていたという事を知らせるために、僕は彼の背後に忍び寄り、「竹中君」と声をかけた。すると、彼は何故か恥ずかし気に顔を真っ赤にさせて、顔を両手で覆いながら走り去って行った。何故、恥ずかしがる。

僕は彼の反応に首を傾げながら、机に突っ込まれていたものを取り出してみた。

『S Mグッズ パンフレット』

なんぞ。S Mとは、なんぞ。

ぱらり、とパンフレットをめくってみる。まず目に飛び込んでき

たものは鞭。むち？ 乗馬のパンフレットだろうか、と次のページをめくってみると、何故か浣腸。その他にも用途不明な丸っこいものや、色鮮やかな縄やら、不思議なもので溢れていた。特に不思議だったのは、モデルの人が半裸で、ことあるごとに拘束されているのが不可解だった。

その日の夜。僕は禁断の世界を覗いた。

僕は自慢ではないが、箱入り息子だ。蝶よ、花よと育てられた訳ではないが、母が潔癖でドラ。もんを見ていても、シズカちゃんの入浴シーンが出てきたらチャンネルを変えられる。僕の愛読書は『ぐりとぐら』だ。とにかく少しでも大人の世界の事を匂わせると母が目の色を変えるので、僕も自主的には関わろうとしなかったのだが……。

まさか、S Mが大人の世界の……しかも玄人向けのものだったとは……。

父のパソコンで検索してみれば、出るわ出るわ怪しいサイトが。うっかり無修正の動画を開いてみたものだから、僕はつい食い入るように見てしまった。

その日、僕はS Mの事を知ると同時に、大人の階段を一步のぼったのだった。

後日、竹中君を廊下で発見した時、彼は何かを期待しているような目付きで僕を見てきた。大人になった今の僕なら分かる。彼は“ドM”なのだ。そして、僕は“ドS”なのだ。利害は一致している。

だが、しかし。

生憎、僕はガチホモの道へ歩みたくはない。それに何より、SよりMがいい。僕はやっぱり彼になりたいのだ。いや、彼になりたいと言っよりは、Mになりたい。

痛みを悦びに変える彼らMは、痛みを恐れず、むしろ求めて敵に立ち向かう事ができる。なにせ痛みで怯む事は無いのだから。格闘技において、それは最強の武器になるのでは……と思う。

そう、彼らコードネーム“M”は、最強の戦闘民族となりえる素質を持っているのだ。

そんな“M”に、僕は羨望を抱かずにはいられない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7635t/>

ドMになりたいドS君

2011年6月2日19時40分発行